

韓 国 語

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

昨年度よりセンター試験から共通テストと名称が変更され、いくつか変更点もあったが、今年度は、その変更点をそのまま引き継ぎ、前年度とほぼ同じ問題形式であった。

センター試験から共通テストに移行するにあたり、英語では、「出題教科・科目の問題作成の方針」として、「高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。」と明記し、実行された。英語以外の外国語の問題作成の方針にも、「教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。」と記されているが、韓国語では、分量こそ減りはしたが、いまだ第1問（60点分、全体の3割）で、発音や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識のみを問う問題が出題されている。また、問題作成の方針に「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。」とあるが、第4問の長文問題では、抽象的な概念を扱ったエッセイや精読を必要とする設問の出題がされている。

前年度と同じ指摘になるが、高い平均点を抑えるために難易度を上げる必要はない。つまり、平均点を上げているネイティブや民族学校出身者「対策」の問題は必要ないと考える。受験者層が「英語」等と違うことは今までも検証されており、繰り返しになるが、平均点を上げている受験者層のために極端に難易度を上げることは、本委員会が受験者層として想定している「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」のためにも適切ではないと思われる。

例年通り本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度・学習範囲の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験（TOPIK）のⅡ（3～4級）及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級レベルを想定していることをここに明記する。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲等

本項目では、前文の「高等学校4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、第1問については、適切な問題とは言えない問題を中心に取り上げることとする。

第1問

A 発音に関する問題

問2の「곧이어」は学習範囲外の単語である。また、「태권도」の「권」は、有声音化せず、「태권도」と濃音化するが、発音の規則通りではなく、覚えるか覚えていないかという知識のみを問う問題である。このような問題が、「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定」をより重要視した出題なのか、甚だ疑問である。例年指摘してい

るが、第1問Aの発音に関する問題の出題の方法を再検討していただきたい。また、同じような出題形式は、今後、されないことを切に願う。

B 適切な助詞，語尾，語彙を選択する問題

学習範囲内の語彙や文法であるが，その知識のみを問う問題の出題には疑問が残る。例として次の2問について言及したい。

問3 「밑줄(下線)」は「당기다(引っ張る)」ものでも、「붙이다(引っ付ける)」ものでも、「펴다(延ばす)」ものでもなく、「치다(引く)」ものであるという語彙の知識だけを取り出して問うこと，また，問5の依存名詞「-대로」が「-したらずぐ，-し次第」の意味で使われるときは，必ず前に現在連体形が来るという文法の知識は必要であるが，その文法の知識のみを取り出して問うことで，果たしてコミュニケーション能力を評価できるのか疑問である。

C 類似した意味を問う問題

学習範囲内の語彙や文法であるが，B同様，その知識のみを問う問題の出題には疑問が残る。

第2問 比較的長い会話文を読んで，空欄に入れる適切な表現を選んだり，会話文の内容を把握したりする問題

A デザインコンテストで入賞した大学生たちが賞金をどう使うかについて話している対話文。

問1 前後の対話文から空欄に入る文を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問2 前後の文脈を読み取れば解ける問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問3 前後の対話文から空欄に入る文を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問4 空欄に入る適切な表現を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

問5 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

B 韓国語教師，ユカ（留学生），ハンス（留学生），ハオミン（留学生）の四者による韓国語の授業中の対話文である。語彙，表現，場面設定，テーマともに適当であると言える。以下に各問を細かく見ていく。

問1 適当な対話文における語尾表現を選ぶ問題。대요，군요，네요，거든요，는데요，더러요の用法が理解できていれば解ける問題。良問。

問2 文末に그럴걸요（そうだと思います）を挿入する問題。誤答②の그럴싸하다は語彙の難易度の範囲を逸脱しており，適当な問題とは言いがたい。

問3 文頭に하긴（そういえば）を挿入する問題。用法を理解していれば容易に正答が導き出せる良問。

問4 文中に생각보다 다른 부분이 많아서（思ったより異なる部分が多くて）を挿入する問題。前後の対話文の文意を理解できれば解ける問題ではあるが，誤答④의-마따나는語彙の難易度の範囲を逸脱しているため，適当な問題とは言えない。

問5 本文の内容と一致する文章を選ぶ問題。対話文全体の文意が把握できれば解ける問題。良問。

第3問 以前から，評価委員が，図表やグラフ，イラスト，広告などから情報を読み取り解く問題を出題してほしいと要望していたが，前年度の共通テストから，図表やイラストを使用した出題が多くなされ，今年度も引き続き出題された。

A 図表やグラフが何を表しているか読み解く問題

問1 提示されたグラフの内容を読み取る問題。ソウルとプサンの月ごとの平均気温の変化がグラフで表示されており、テーマも簡易で良問と言える。

問2 ある商店街の売り場配置図を見てその内容と一致している文章を選ぶ問題。配置図及び文章に使用されている語彙の難易度は適当であり、良問。ただし、問1、2ともに設問数を少し増やしても良いのではないかと思うがいかがか。

B 家具の組立て説明書から必要な情報を読み取る問題

問1 説明書の中に文法問題を取り入れた問題。対話文や長文の中に文法問題を入れて出題してほしいという要望が採用されたが、依然として、語彙の知識のみを問う問題であり、共通テストで必要とされる思考力を問う問題と言えるだろう。

問2 説明書から必要な情報を読み取り、組み立てた完成図を選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言えるが、空間認知を苦手とする受験者にはこのような問題を苦手とする受験者もいるかもしれない。

問3 本文の内容と合うものを選ぶ問題。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。

C インターネットサイトと関連した資料から必要な情報を読み取る問題

問1 インターネットサイトの飲食店の広告から必要な情報を読み取る問題。適当な問題。

問2 正答の「콩국수(豆乳そうめん)」という単語が季節限定メニューとして出ていることと、誤答の④の時制が間違っていることに気付きにくかったからか、正答率は低かった。やや難易度が高い。

問3 本文の内容と合うものを選ぶ問題。選択肢は日本語で適当な問題。

第4問 長文読解問題。人々は新年に新たな目標を立て、今までの習慣を変えてみようと試みる。一度身についた習慣を変えることは困難であり、習慣を変えるためには綿密な計画が必要であることを論じたエッセイ。文章中に使用されている語彙・表現は適当であるが、課題文が長すぎることで、複雑な設問が多く、精読が要求され、中級学習者にとっては難易度が高いように思われる。また、設問数が極端に増えたが、同じ傾向の問題も多く、7～8問程度に抑えることを願う。以下に各問を見ていく。

問1 漢字語彙に関する問題。文中の語彙と同じ漢字を選ぶ。(ア→洗 イ→期) 適当な問題。

問2 文中に挿入する適当な文章を選ぶ問題。正答は②세 살 버릇 여든까지 간다, (3歳の癖は80歳まで。) 適当な問題である。

問3 文中의 짜다 と同意で使われている文章を選ぶ問題。文中は계획을 짜다 (計画を立てる), 正答は예산을 짜다 (予算を立てる)。良問。

問4 日本語の「三日坊主」に近い韓国語の諺を選ぶ問題。正答は④작심삼일로 (作心三日)。韓国の諺に精通していなくても正答を導くことは可能。良問。

問5 文中の空欄に適当な韓国語を選び挿入する問題。前後の文意を理解することができれば解くことができる問題。

問6 文中に入れる韓国語を選ぶ問題。보상 (報償) という漢字語彙の使用法が複雑で、前後を何度か読み返さないと正答を導くのが難しい問題。

問7 文中の指示語그러한 것 (そのようなこと) が示す言葉を選ぶ問題。良問。

問8 本文の趣旨と合う韓国語の文章を選ぶ問題。適当な問題。

問9 以下の韓国語の文章を適当な位置に挿入する問題。그래서 이번에도 역시 실패했다는 절망감이 다음번 실행을 방해하고 만다. (それで、今度もやはり失敗したという絶望感が次の実行を妨害してしまう。) 前後の文意を理解していれば解答することが可能。適当な問

題。

問10 本文の内容と一致する韓国語の文章を選ぶ問題。6つの文章から内容が一致する二文を選ぶ問題形式であるが、この問い以外にも本文の内容全体の意味を理解しているかどうか尋ねる問題がいくつか見られ、その度ごとの読み返し作業が必要となり、問題を解く時間が不足する生徒が多くいることが予想される。現在の設問形式に加え、多様な設問形式の研究が求められる。

3 ま と め

さて、今回の「韓国語」共通テストも、難易度に比して平均点が高いことや、韓国語受験者の他教科の試験結果など、いくつかの資料を総合的に見ると、従来通り一般の高校での韓国語学習者が主たる受験者ではないことが推測される。この状態は、2003年の「韓国語」センター試験実施以降、継続している。

周知の通り、現行の学習指導要領には韓国語に関する要項が無く（英語に準ずるとされている）、学習指導要領を基に問題の難易度を評価することができない。そのため、既存の言語検定試験を基に難易度を評価することを基本としている。TOPIKの中級は3級から4級を指しており、おおよそ英語の準2級～2級レベルに相当する。

そこで、本評価委員が勤務する高校で韓国語を学習する生徒（4級取得者）に、本試験を解いてもらった。結果は以下の通りである。A：126点（4級）、B：142点（4級）、C144点（4級）。これらの結果より、今回の韓国語試験の問題難易度は、ほぼ中級レベルを想定しているものと言える。つまり本試験の問題は、ほぼ適切な難易度で問題作成がなされていると言える。

難易度という点では、適切であると言えるが、新しい学習指導要領に謳う「思考力・判断力・表現力等」を問う問題としては、どうであろうか。つまり、従来の語彙や文法の知識を問うだけの問題から思考力・判断力・表現力等を問う問題に、どれくらい発展、変化しているかを、我々は評価しなければならない。この点では、今回課題として使われている言語素材は、以前と比べ多様で、より実際のコミュニケーションを反映したものになっており、問題作成部会の工夫が見られる。ただ、設問の形式については、以前と変わらぬオーソドックスなものが多く、今後、より「思考力・判断力・表現力等」を問うためには、設問の形式にバリエーションを持たせる必要があるように思われる。この点が、今後の課題である。